

(2) 産業基盤整備勘定

貸借対照表

(令和7年3月31日)

資産の部

I 流動資産

現金及び預金	5,096,715,665	
有価証券	5,300,000,000	
貯蔵品	33,072	
前払費用	154,907	
未収収益	14,875,084	
未収入金	111,066	
前払金	822,346	
流動資産合計		10,412,712,140

II 固定資産

1 有形固定資産

工具器具備品	1,599,220	
減価償却累計額	△1,519,211	80,009
有形固定資産合計		80,009

2 投資その他の資産

投資有価証券	14,572,456,424	
求償権	1,371,396,117	
前払年金費用	10,362,512	
貸倒引当金 (△)	△1,371,396,117	
投資その他の資産合計	14,582,818,936	
固定資産合計		14,582,898,945
資産合計		24,995,611,085

負債の部

I 流動負債

未払金	8,144,580	
未払法人税等	24,700	
前受金	26,286,602	
預り金	744,448	
仮受金	26	
引当金		
賞与引当金	3,672,139	3,672,139
流動負債合計		38,872,495

II 固定負債

引当金		
退職給付引当金	68,491,655	
保証債務損失引当金	268,167,808	336,659,463
固定負債合計		336,659,463
負債合計		375,531,958

純資産の部

I 資本金

政府出資金	23,693,061,200	
資本金合計		23,693,061,200

II 資本剰余金

資本剰余金	49,567,325	
その他行政コスト累計額 (注)	△3,443,132	
減価償却相当累計額 (△) (注)	△1,230,462	
除売却差額相当累計額 (△) (注)	△2,212,670	
民間出えん金 (注)	900,540,000	
資本剰余金合計		946,664,193

III 繰越欠損金

前中期目標期間繰越積立金 (注)	1	
当期末処理損失	19,646,267	
(うち当期総損失	19,646,267)	
繰越欠損金合計		19,646,266
純資産合計		24,620,079,127
負債純資産合計		24,995,611,085

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

行政コスト計算書			
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)			
I	損益計算書上の費用		
	スタートアップ創出・成長支援業務費	101,566,320	
	事業継続・経営体力強化支援業務費	3,150,825	
	一般管理費	29,484,948	
	法人税、住民税及び事業税	24,700	
	損益計算書上の費用合計		134,226,793
II	行政コスト		134,226,793

損益計算書
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

経常費用

スタートアップ創出・成長支援業務費

保証債務損失引当金繰入	52,666,727	
役員給	309,923	
給与賞与諸手当	32,360,505	
法定福利費	4,864,919	
賞与引当金繰入額	2,403,421	
退職給付費用	△1,952,863	
賃借料	5,766,943	
その他スタートアップ創出・成長支援業務費	5,146,745	101,566,320

事業継続・経営体力強化支援業務費

役員給	18,158	
給与賞与諸手当	2,105,354	
嘱託・臨時職員給与	209,922	
法定福利費	318,984	
賞与引当金繰入額	158,010	
退職給付費用	△142,707	
賃借料	373,410	
その他事業継続・経営体力強化支援業務費	109,694	3,150,825

一般管理費

役員給	559,583	
給与賞与諸手当	6,622,721	
嘱託・臨時職員給与	1,712,551	
法定福利費	1,778,491	
賞与引当金繰入額	833,754	
退職給付費用	△538,875	
業務委託費・報酬費	4,620,745	
賃借料	3,786,715	
保守修繕費	4,005,538	
雑費	2,947,357	
その他一般管理費	3,156,368	29,484,948

経常費用合計

134,202,093

経常収益

債務保証料収入		46,681,988
資産運用収入		4,161,000
財務収益		
受取利息	2,362,529	
有価証券利息	47,992,600	50,355,129
雑益		570,700

経常収益合計

101,768,817

経常損失

32,433,276

臨時利益

貸倒引当金戻入益		11,230,970
臨時利益合計		11,230,970

税引前当期純損失

21,202,306

法人税、住民税及び事業税

24,700

当期純損失

21,227,006

前中期目標期間繰越積立金取崩額

(注)

1,580,739

当期総損失

19,646,267

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

(産業基盤整備勘定)

純資産変動計算書
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位：円)

	Ⅰ 資本金		Ⅱ 資本剰余金					Ⅲ 繰越欠損金					純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額		民間出えん金	資本剰余金合計	前中期目標期間繰越積立金	積立金	当期末処理損失	繰越欠損金合計		
				減価償却相当累計額 (△)	除売却差額相当累計額 (△)								
当期首残高	23,693,061,200	23,693,061,200	49,567,325	△1,230,462	△2,212,670	900,540,000	946,664,193	221,396,760	80,225,832	△3,562,598	—	△305,185,190	24,944,910,583
当期変動額													
Ⅰ 利益剰余金の当期変動額													
（１）利益の処分又は損失の処理													
前中期目標期間からの繰越し								1,580,740	△1,580,740			—	
積立金への振替								△221,396,760	224,959,358	3,562,598		—	—
利益処分(又は損失処理)による取り崩し													
国庫納付金の納付									△303,604,450			303,604,450	△303,604,450
（２）その他													
当期純損失										21,227,006	21,227,006	21,227,006	△21,227,006
前中期目標期間繰越積立金取崩額								△1,580,739		△1,580,739	△1,580,739	—	—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—	△221,396,759	△80,225,832	23,208,865	19,646,267	324,831,456	△324,831,456
当期末残高	23,693,061,200	23,693,061,200	49,567,325	△1,230,462	△2,212,670	900,540,000	946,664,193	1	—	19,646,267	19,646,267	19,646,266	24,620,079,127

キャッシュ・フロー計算書
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	商品又はサービスの購入による支出	△34,312,829
	人件費支出	△67,123,466
	債務保証料収入	55,073,187
	求償権回収による収入	11,230,970
	出資事業収入	4,161,000
	消費税等還付額	926,986
	その他の業務収入	568,496
	小計	△29,475,656
	利息及び配当金の受取額	47,348,296
	国庫納付金の支払額	△303,604,450
	法人税等の支払額	△28,880
	業務活動によるキャッシュ・フロー	△285,760,690
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	有価証券の取得による支出	△3,100,000,000
	有価証券の償還による収入	4,100,000,000
	投資活動によるキャッシュ・フロー	1,000,000,000
III	資金増加額	714,239,310
IV	資金期首残高	4,382,476,355
V	資金期末残高	5,096,715,665

損失の処理に関する書類
(令和7年7月9日)

I	当期末処理損失		19,646,267
	当期総損失	19,646,267	
II	次期繰越欠損金		19,646,267

I 重要な会計方針

「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和3年9月21日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するQ & A」（令和4年3月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

1. 減価償却の会計処理方法

（1）有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、工具器具備品の耐用年数は2年～10年であります。

（2）特定の償却資産

有形固定資産のうち、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第87第1項）の減価償却相当額については、減価償却相当累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

2. 引当金の計上基準

（1）貸倒引当金

求償権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

（2）賞与引当金

役員及び職員等に対する賞与の支払に充てるため、将来の支払見込額のうち当事業年度に発生した額を計上しております。

（3）保証債務損失引当金

債務保証に係る損失に備えるため、被保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

なお、当該引当金の計上にあたっては、一般債権に相当する被保証先については保証履行等実績率に基づき、また、貸倒懸念債権及び破産更生債権等に相当する被保証先については個別に保証履行可能性を勘案して計上しております。

3. 退職給付に係る引当金の計上基準及び退職給付費用の処理方法

役員及び職員等への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づいて退職給付引当金（前払年金費用）を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、発生事業年度に全額費用処理しております。

4. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的債券

償却原価法（定額法）によっております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等については、移動平均法に基づく原価法によっております。

5. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

先入先出法による低価法によっております。

6. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

7. 重要な会計上の見積り

保証債務損失引当金

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

保証債務損失引当金	268,167,808円
-----------	--------------

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

① 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出方法

保証債務損失引当金の算出方法は「I 重要な会計方針 2. 引当金の計上基準 (3) 保証債務損失引当金」に記載しております。

② 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

主要な仮定は、「債務保証に係る保証先区分の判定における被保証先の信用リスク」であり、保証先区分毎に、過去の実績と同程度の保証債務が履行されると仮定しております。

③ 翌事業年度の財務諸表に与える影響

被保証先の財務状況の悪化等が生じ、保証債務の履行が将来発生した場合には、翌事業年度以降の財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

II 注記事項

[貸借対照表関係]

1. 保証債務

令和7年3月末現在における保証債務残高は、13,140,864,500円であります。

2. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額

その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額は△3,443,132円であります。

[行政コスト計算書関係]

1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	134,226,793円
自己収入等	△112,999,787円
法人税等及び国庫納付額	△24,700円
機会費用	352,606,804円
独立行政法人の業務運営に関して 国民の負担に帰せられるコスト	373,809,110円

2. 機会費用の計上方法

(1) 政府出資又は地方公共団体出資等から生ずる機会費用の計算に使用した利率
10年利付国債の令和7年3月末利回りを参考に1.485%で計算しております。

(2) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、退職手当支給規程に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

[損益計算書関係]

1. その他スタートアップ創出・成長支援業務費の内訳は、次のとおりであります。

嘱託・臨時職員給与	3,102,178円
旅費交通費	212,789円
業務委託費・報酬費	1,460,129円
通信運搬費	22,754円
水道光熱費	89,821円
租税公課	28,774円
雑費	700円
諸謝金	229,600円
合 計	5,146,745円

2. その他事業継続・経営体力強化支援業務費の内訳は、次のとおりであります。

旅費交通費	5,611円
業務委託費・報酬費	95,507円
通信運搬費	1,276円
水道光熱費	5,814円
租税公課	1,486円
合 計	109,694円

3. その他一般管理費の内訳は、次のとおりであります。

福利厚生費	39,303円
旅費交通費	497,297円
通信運搬費	529,593円
保険料	22,818円
水道光熱費	44,047円
租税公課	163,045円
消耗品・備品費	1,123,694円
研修活動費	153,001円
諸謝金	569,599円
印刷製本費	13,971円
合 計	3,156,368円

[キャッシュ・フロー計算書関係]

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	5,096,715,665円
資金期末残高	5,096,715,665円

[退職給付関係]

1. 採用している退職給付制度の概要

当機構は、役員及び職員等への退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型の確定給付制度）では、退職給付として、内部規程に基づき支給しております。

確定給付企業年金（積立型の確定給付制度）及び確定拠出年金では、経済産業関係法人企業年金基金に加入しております。

2. 確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	137,338,120円
勤務費用	2,549,717円
利息費用	1,038,105円
数理計算上の差異の当期発生額	△6,613,558円
退職給付の支払額	△9,886,283円
制度加入者からの拠出額	142,248円
期末における退職給付債務	124,568,349円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	69,058,082円
期待運用収益	1,006,180円
数理計算上の差異の当期発生額	△1,289,990円
事業主からの拠出額	950,132円
退職給付の支払額	△3,427,446円
制度加入者からの拠出額	142,248円
期末における年金資産	66,439,206円

(3) 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	56,076,694円
年金資産	△66,439,206円
積立型制度の未積立退職給付債務	△10,362,512円
非積立型制度の未積立退職給付債務	68,491,655円
小 計	58,129,143円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	58,129,143円
退職給付引当金	68,491,655円
前払年金費用	△10,362,512円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	58,129,143円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用（注）	2,549,717円
利息費用	1,038,105円
期待運用収益	△1,006,180円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△5,323,568円
合 計	△2,741,926円

（注）勤務費用から、企業年金に対する役職員拠出額を控除しております。

(5) 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	47%
株式	41%
保険資産	4%
その他	8%
合 計	100%

(6) 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率

退職一時金制度	1.50%
確定給付企業年金制度	1.78%
長期期待運用収益率	3.00%

3. 確定拠出制度

当機構の確定拠出制度への要拠出額は、107,481円でありました。

[金融商品関係]

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当機構は、資金運用については独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）等に基づき運用の安全性・確実性を確保し、また決済資金等の資金需要に備えられるよう流動性を確保するとともに、収益稼得のための効率性・収益性を確保することとしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

保有する金融資産は、主として満期保有目的で所有している債券であり、発行体の信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。これらについては独立行政法人中小企業基盤整備機構余裕金運用要領に基づき、信用ある格付機関として指定する5機関のいずれかによりA格以上の格付を得ている銘柄の債券の取得をしており、取得後に、付与されている格付のうちA格未満が2分の1以上となった債券については、発行体の信用（債務不履行）リスクに十分留意したうえで、必要に応じて適切な手段（売却を含む。）を講ずることとしております。

なお、付与されている格付がいずれもBBB格未満若しくはBaa格未満となった債券又は取得原価と時価を比べて時価が著しく下落した債券については、原則として売却することとしております。

また、国内事業者に対する債務保証の履行金（代位弁済金）である求償権は、被保証先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、産業基盤整備業務に係る債務保証事務取扱要領等に従い、定期的に経営状況や保証・担保状況を把握する体制を整備、運用して適切に債権保全を図っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。また、現金は注記を省略しており、預金、譲渡性預金及び未払金等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：円)

区 分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1)有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券	17,900,000,000	17,654,520,000	△245,480,000
(2)求償権 貸倒引当金	1,371,396,117 △1,371,396,117	—	—

(注) 市場価格のない株式等は次のとおりです。

(単位：円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式	1,972,456,424

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の三つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：円)

区 分	時 価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
(1)有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券	—	17,654,520,000	—	17,654,520,000
(2)求償権	—	—	—	—

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

(1) 有価証券及び投資有価証券

満期保有目的の債券

満期保有目的の債券については、日本証券業協会が公表している売買参考統計値又は取引金融

機関から提示された価格を時価としております。国債は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しておりますが、地方債及び社債は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められない場合、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(2) 求償権

求償権の時価については、貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除して算定しているため、レベル3の時価に分類しております。

Ⅲ 重要な債務負担行為

該当ありません。

Ⅳ 重要な後発事象

該当ありません。

Ⅴ 固有の表示科目の内容

該当ありません。

Ⅵ その他独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報

該当ありません。

附属明細書

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費（「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

(単位：円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期減損額		
有形固定資産 (減価償却費)	工具器具備品	288,750	—	—	288,750	288,749	—	—	—	1	
	計	288,750	—	—	288,750	288,749	—	—	—	1	
有形固定資産 (減価償却相当額)	工具器具備品	1,230,470	—	—	1,230,470	1,230,462	—	—	—	8	
	計	1,230,470	—	—	1,230,470	1,230,462	—	—	—	8	
非償却資産	工具器具備品	80,000	—	—	80,000	—	—	—	—	80,000	
	計	80,000	—	—	80,000	—	—	—	—	80,000	
有形固定資産 合計	工具器具備品	1,599,220	—	—	1,599,220	1,519,211	—	—	—	80,009	
	計	1,599,220	—	—	1,599,220	1,519,211	—	—	—	80,009	
投資その他の 資産	投資有価証券	16,772,456,424	3,100,000,000	5,300,000,000	14,572,456,424					14,572,456,424	(注)
	求償権	1,456,540,317	—	85,144,200	1,371,396,117					1,371,396,117	
	長期前払費用	12,642	—	12,642	—					—	
	前払年金費用	8,324,564	2,037,948	—	10,362,512					10,362,512	
	貸倒引当金（△）	△1,456,540,317	—	△85,144,200	△1,371,396,117					△1,371,396,117	
	計	16,780,793,630	3,102,037,948	5,300,012,642	14,582,818,936					14,582,818,936	

(注) 当期増加額は、満期保有目的債券の取得（3,100,000,000円）によるものであり、当期減少額は、一年基準により流動資産「有価証券」への振替（5,300,000,000円）によるものであります。

2. 棚卸資産の明細

(単位：円)

種 類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘 要
		当期購入・ 製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品	11,258	33,072	—	11,258	—	33,072	
計	11,258	33,072	—	11,258	—	33,072	

3. 有価証券の明細

(1) 流動資産として計上された有価証券

(単位：円)

区 分	種類及び銘柄	取得価額	券面総額	貸借対照表計上額	当期費用に含まれた評価差額	摘 要
満期保有 目的債券	第270号 利付商工債（3年）	200,000,000	200,000,000	200,000,000	—	
	第271号 利付商工債（3年）	200,000,000	200,000,000	200,000,000	—	
	第272号 利付商工債（3年）	200,000,000	200,000,000	200,000,000	—	
	第158回 株式会社日本政策投資銀行社債	500,000,000	500,000,000	500,000,000	—	
	第278回 日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	100,000,000	100,000,000	—	
	第72回 日本学生支援債券	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	—	
	第74回 日本学生支援債券	700,000,000	700,000,000	700,000,000	—	
	第48回 成田国際空港株式会社社債	500,000,000	500,000,000	500,000,000	—	
	第74回 株式会社ホンダファイナンス社債	700,000,000	700,000,000	700,000,000	—	
	第181回 東日本旅客鉄道株式会社社債	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	—	
	計	5,300,000,000	5,300,000,000	5,300,000,000	—	
貸借対照表計上額合計				5,300,000,000		

(2)投資その他の資産として計上された有価証券

(単位：円)

区 分	種類及び銘柄	取得価額	券面総額	貸借対照表計上額	当期費用に含まれた評価差額	摘 要
満期保有 目的債券	第3回 埼玉県5年公募公債	800,000,000	800,000,000	800,000,000	—	
	令和5年度第8回 千葉市公募公債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第869号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第870号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第872号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第874号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第878号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第890号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第891号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第892号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第893号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第894号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第895号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第896号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	い 第897号 利付商工債	300,000,000	300,000,000	300,000,000	—	
	第282号 利付商工債 (3年)	200,000,000	200,000,000	200,000,000	—	
	第21回 水資源債券	700,000,000	700,000,000	700,000,000	—	
	第192回 都市再生債券	100,000,000	100,000,000	100,000,000	—	
	第75回 日本学生支援債券	700,000,000	700,000,000	700,000,000	—	
	第28回 首都高速道路株式会社社債	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	—	
	第61回 西日本高速道路株式会社社債	800,000,000	800,000,000	800,000,000	—	
	第33回 大和ハウス工業株式会社社債	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	—	
	第33回 住友金属鉱山株式会社社債	200,000,000	200,000,000	200,000,000	—	
	第71回 株式会社ホンダファイナンス社債	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	—	
	第101回 トヨタファイナンス株式会社社債	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	—	
	第207回 オリックス株式会社社債	100,000,000	100,000,000	100,000,000	—	
	計	12,600,000,000	12,600,000,000	12,600,000,000	—	

区 分	種類及び銘柄	取得価額	時価	貸借対照表計上額	当期費用に含まれた評価差額	その他 有価証券 評価差額金	摘要
その他 有価証券	<輸入促進基盤整備出資>	1,972,456,424	—	1,972,456,424	—	—	
	(株) 北九州輸入促進センター	992,000,000	—	992,000,000	—	—	
	愛媛エフ・イー・ゼット (株)	414,000,000	—	414,000,000	—	—	
	(株) 大分国際貿易センター	123,000,000	—	123,000,000	—	—	
	(株) さかいみなと貿易センター	133,000,000	—	133,000,000	—	—	
	(株) 舞鶴21	187,000,000	—	187,000,000	—	—	
	(株) 仙台港貿易促進センター	123,456,424	—	123,456,424	—	—	
	計	1,972,456,424	—	1,972,456,424	—	—	
貸借対照表計上額合計				14,572,456,424			

(注) その他有価証券に記載している区分の内容は、以下のとおりであります。

区 分	根拠法令等
輸入促進基盤整備出資	旧輸入の促進及び対内投資事業の円滑化に関する臨時措置法（平成4年法律第22号）第8条第2号に基づく出資

4. 貸付金等の明細

該当ありません。

5. 長期借入金の明細

該当ありません。

6. 中小企業基盤整備債券の明細

該当ありません。

7. 引当金の明細

(単位：円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘 要
			目的使用	その他		
賞与引当金	4,468,157	3,672,139	4,468,157	—	3,672,139	
保証債務損失引当金	215,501,081	52,666,727	—	—	268,167,808	
計	219,969,238	56,338,866	4,468,157	—	271,839,947	

8. 貸付金等に対する貸倒引当金の明細

(単位：円)

区 分	貸付金等の残高			貸倒引当金の残高			摘 要
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高	
求償権	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	
破産更生債権等	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	
計	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	1,456,540,317	△85,144,200	1,371,396,117	

(注) 貸倒見積高の算定方法は、「Ⅰ重要な会計方針」の「2. 引当金の計上基準(1)貸倒引当金」に記載しております。

9. 退職給付引当金の明細

(単位：円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘 要
退職給付債務合計額	137,338,120	△2,883,488	9,886,283	124,568,349	
退職一時金に係る債務	76,604,602	△1,654,110	6,458,837	68,491,655	
確定給付企業年金等に係る債務	60,733,518	△1,229,378	3,427,446	56,076,694	
未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異	—	△5,323,568	△5,323,568	—	
年金資産	69,058,082	808,570	3,427,446	66,439,206	
退職給付引当金	68,280,038	△3,692,058	6,458,837	58,129,143	

(注) 退職給付引当金の期末残高には、前払年金費用が含まれております。

10. 資産除去債務の明細

該当ありません。

11. 法令に基づく引当金等の明細

該当ありません。

12. 保証債務の明細

(単位：円)

区 分	期首残高		当期増加		当期減少		期末残高		保証料収益
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	金 額
第二種信用基金	39	9,885,370,737	14	7,044,750,005	13	3,789,256,242	40	13,140,864,500	46,681,988
計	39	9,885,370,737	14	7,044,750,005	13	3,789,256,242	40	13,140,864,500	46,681,988

13. 資本剰余金の明細

(単位：円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘 要
減資差益	49,567,325	－	－	49,567,325	
計	49,567,325	－	－	49,567,325	

14. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

該当ありません。

15. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

該当ありません。

16. 役員及び職員の給与の明細

法人単位の附属明細書に記載しております。

１７．セグメント情報

(単位：円)

	スタートアップ創出・ 成長支援	事業継続・経営体力強化支援	計	法人共通	合 計
I 行政コスト					
損益計算書上の費用合計	129,292,154	4,909,939	134,202,093	24,700	134,226,793
行政コスト	129,292,154	4,909,939	134,202,093	24,700	134,226,793
II 独立行政法人の業務運営に関して 国民の負担に帰せられるコスト	67,218,196	4,909,939	72,128,135	301,680,975	373,809,110
III 事業費用、事業収益及び事業損益					
事業費用	101,566,320	3,150,825	104,717,145	—	104,717,145
スタートアップ創出・成長支援	101,566,320	—	101,566,320	—	101,566,320
事業継続・経営体力強化支援	—	3,150,825	3,150,825	—	3,150,825
一般管理費	27,725,834	1,759,114	29,484,948	—	29,484,948
計	129,292,154	4,909,939	134,202,093	—	134,202,093
事業収益					
債務保証料収入	46,681,988	—	46,681,988	—	46,681,988
資産運用収入	4,161,000	—	4,161,000	—	4,161,000
財務収益	—	—	—	50,355,129	50,355,129
雑益	—	—	—	570,700	570,700
計	50,842,988	—	50,842,988	50,925,829	101,768,817
事業損益	△78,449,166	△4,909,939	△83,359,105	50,925,829	△32,433,276
IV 臨時損益等					
臨時利益					
貸倒引当金戻入益	11,230,970	—	11,230,970	—	11,230,970
計	11,230,970	—	11,230,970	—	11,230,970
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（△）	△67,218,196	△4,909,939	△72,128,135	50,925,829	△21,202,306
法人税等	—	—	—	24,700	24,700
当期純利益又は当期純損失（△）	△67,218,196	△4,909,939	△72,128,135	50,901,129	△21,227,006
前中期目標期間繰越積立金取崩額	1,533,155	47,584	1,580,739	—	1,580,739
当期総利益又は当期総損失（△）	△65,685,041	△4,862,355	△70,547,396	50,901,129	△19,646,267
V 総資産					
流動資産					
現金及び預金	284,032,322	—	284,032,322	4,812,683,343	5,096,715,665
有価証券	—	—	—	5,300,000,000	5,300,000,000
貯蔵品	—	—	—	33,072	33,072
前払費用	—	—	—	154,907	154,907
未収収益	—	—	—	14,875,084	14,875,084
未収入金	—	—	—	111,066	111,066
前払金	—	—	—	822,346	822,346
流動資産 計	284,032,322	—	284,032,322	10,128,679,818	10,412,712,140
固定資産					
工具器具備品	—	—	—	80,009	80,009
投資有価証券	1,972,456,424	—	1,972,456,424	12,600,000,000	14,572,456,424
求償権	1,371,396,117	—	1,371,396,117	—	1,371,396,117
前払年金費用	—	—	—	10,362,512	10,362,512
貸倒引当金（△）	△1,371,396,117	—	△1,371,396,117	—	△1,371,396,117
固定資産 計	1,972,456,424	—	1,972,456,424	12,610,442,521	14,582,898,945
資産 計	2,256,488,746	—	2,256,488,746	22,739,122,339	24,995,611,085

(注１) 事業区分の方法

中期目標等における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。

なお、当事業年度においてセグメント区分の変更を行っております。これは、当事業年度より第5期中期目標に合わせて見直しを行ったものであります。

(注２) 各区分の内容

スタートアップ創出・成長支援：産業競争力強化法等に基づく債務の保証及び求償権の管理並びに第3セクター出資事業により取得した株式の管理に係る経理

事業継続・経営体力強化支援：産業競争力強化法等に基づく債務の保証に係る経理

(注３) 事業収益のうち、法人共通の項目に含めた配賦不能収益の金額は、50,925,829円であり、その主な内容は、管理部門に係る収益であります。

(注４) 総資産のうち、法人共通の項目に含めた配賦不能資産の金額は、22,739,122,339円であり、その主な内容は、管理部門に係る資産等であります。

(注５) 前中期目標期間繰越積立金に対応する費用

第二種信用基金に係る経過勘定に係る経費：1,580,739円

1 8．その他の資産、負債、費用及び収益の明細

該当ありません。

1 9．信用基金の運用状況の明細

①第一種信用基金

概要

第一種信用基金は、機構法第15条第1項第8号に掲げる業務のうち債務の保証に関するもの並びにこれらに付帯する業務に関し設けられております。当基金は、中小企業総合事業団法及び機械類信用保険法の廃止等に関する法律（以下「廃止法」という。）附則第4条第14項の規定による政府以外の者からの拠出金により構成され、期末残高は191,795,791円となっております。

財政状態

(単位：円)

資 産	金 額	負 債	金 額
現金及び預金	191,795,791		
求償権	689,271,403		
貸倒引当金（△）	△689,271,403		

損益の状況

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
経常費用	440	経常収益	106,231
一般管理費	440	財務収益	106,231
		臨時利益	680,000
		貸倒引当金戻入益	680,000

②第二種信用基金

概要

第二種信用基金は、機構法第15条第1項第7号、第9号、第10号、第14号及び第15号に掲げる業務のうち債務の保証に関するもの並びにこれらに付帯する業務に関し設けられております。当基金は、廃止法附則第4条第13項の規定による政府出資金及び同条第14項の規定による政府以外の者からの拠出金により構成され、期末残高は22,363,540,381円となっております。

財政状態

(単位：円)

資 産	金 額	負 債	金 額
現金及び預金	4,812,633,343	未払金	8,144,580
有価証券	5,300,000,000	未払法人税等	24,700
貯蔵品	33,072	前受金	26,286,602
前払費用	154,907	預り金	744,448
未収収益	14,875,084	仮受金	26
未収入金	111,066	賞与引当金	3,672,139
前払金	822,346	退職給付引当金	68,491,655
有形固定資産	80,009	保証債務損失引当金	268,167,808
投資有価証券	12,600,000,000		
求償権	682,124,714		
前払年金費用	10,362,512		
貸倒引当金（△）	△682,124,714		

損益の状況

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
経常費用	134,153,701	経常収益	97,451,473
スタートアップ創出・成長支援業務費	101,518,808	債務保証料収入	46,681,988
事業継続・経営体力強化支援業務費	3,150,825	財務収益	50,198,785
一般管理費	29,484,068	雑益	570,700
法人税等	24,700	臨時利益	10,550,970
		貸倒引当金戻入益	10,550,970
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	1,580,739